

英文誌「Ornithological Science」のペーパーレス化

日本鳥学会では環境負荷の低減および学会支出の軽減を目的として、2022年度より英文誌「Ornithological Science」のペーパーレス化に取り組んでいます（詳しい背景やこれまでの経緯は「[補足資料](#)」を参照）。

2023年7月3日、英文誌ペーパーレス化に関するアンケート調査を実施し、その結果を同年8月22日に学会ホームページで公開しました。ご協力いただいた皆様に、深く御礼申し上げます。アンケートの結果、[回答者の95%](#)から英文誌ペーパーレス化の全体的な方向性について賛同を得ました（詳細は「[アンケート結果](#)」を参照）。またアンケートでは様々なご意見をいただき、これらについても詳細な検討を行いました。

以上を踏まえて、日本鳥学会は英文誌「Ornithological Science」のペーパーレス化が実現可能であると判断いたしました。つきましては本件について、学会員の皆様にもご審議いただくようお願いいたします。ペーパーレス化が実現した場合のご案内事項、ならびに現在の検討事項については以下の通りです。

ペーパーレス化が実現した場合のご案内事項

- ・これまで年2回郵送していた英文誌「Ornithological Science」の[郵送を廃止または大幅に縮小](#)します（団体会員および一部の配布を希望される学会員への対応については「現在の検討事項」を参照）。
- ・J-STAGEではこれまで通り、学会員は各自のID・パスワードを使ってログインすることで、論文PDFを閲覧およびダウンロード可能です。なお非会員は公開一年後に論文PDFが閲覧およびダウンロード可能です。
- ・J-STAGEのID・パスワードを紛失した学会員がいる可能性を踏まえ、ペーパーレス化が承認された際は学会員一斉メール（メールアドレス未登録者には郵送）にてID・パスワードを再度ご連絡します。この機会に、ぜひご自身の「[マイページシステム](#)」からメールアドレスの登録または更新をお願いいたします。
- ・著者への別刷り30部の無料配布は廃止とし、著者が直接印刷会社に依頼注文する形に変更させていただきます。依頼方法については、論文投稿システムを用いて著者らに直接案内する予定です。
- ・これまで、和文誌・英文誌ともに査読協力者の皆様にはお礼として別刷り無料権（50部）を進呈していました。今後は、和文誌・英文誌問わず査読協力者の皆様には「和文誌の別刷り無料権（50部）」を進呈いたします。英文誌の別刷り無料権は廃止といたします。申し訳ございませんが、ご理解いただけると幸いです。
- ・英文誌の新着論文については、多様な媒体（学会HP、一斉メール、鳥学通信、SNS等）を用いて積極的な情報発信に努めます。その際、タイトルと要旨の日本語訳も添えるよう努めます。ただし、これらの作業には各委員会委員の作業負担が増えることが想定されるため、[アルバイト等の負担軽減策の導入](#)を前提とさせていただきます。また、導入時期は現時点で未定です（ペーパーレス化と同時期での導入を目指します）。
- ・英文誌の表紙絵は今後もJ-STAGEに掲載される予定です。現時点での変更予定はありません。
- ・今回のペーパーレス化にともなう[学会年会費の変更等はありません](#)が、今後も会員サービスの維持・向上に努めてまいります。何卒ご理解いただけますと幸いです。

現在の検討事項（※別途、評議員会での承認が必要）

- ・希望される学会員への冊子配布の継続の可否について
一部の団体会員（3件）、一般会員（5件）および寄贈先（5件）から冊子の継続希望の声がありました。また例年書店からの購入もあります（3件程度）。そこで「50部のみ」印刷する場合の見積もりを行いました：

見積もり(1) 1400部印刷する場合： 印刷製本200万円、郵送40万円（合計240万円）

見積もり(2) 50部印刷する場合： 印刷製本180万円、郵送2万円（合計182万円）

見積もり(3) 印刷しない場合（完全電子化）： 印刷製本156万円、郵送0円（合計156万円）

※印刷しない場合でもPDF作成やJ-STAGE搭載の費用がかかります。

※印刷しない、50部どちらの場合もカラー図を見込んだ価格となっており追加費用はありません。

結果、印刷しない場合は84万円、50部印刷の場合は58万円（ただし売上げ等を考慮すると64万円）の支出軽減が見込めました。よって50部印刷する場合、印刷しない場合と比べて20万円の追加支出となります。

- ・上記の結果を踏まえ、現時点での検討グループ内の総意としては、希望する団体会員、一般会員、寄贈先、書店、および図書管理委員保存用として冊子の印刷を50部のみ継続する方向で考えています。なお、希望する団体会員（会費1万円で、権利は会誌の受け取りおよび刊行物の割引購入に限られている）には冊子の無償配布もしくはJ-STAGEのID/パスワードの付与を想定しています。寄贈先には無償配布の予定です。また一般会員がペーパーレス後も英文誌の印刷・郵送を希望する場合、年間3,000円の追加費用を想定しています。
- ・これまで著者負担だったカラーページについて印刷しない場合、50部印刷する場合のどちらも無償化できる見込みです。印刷部数が大きく減り、カラーページの費用も大きく減ったことで実現可能となります。
- ・多様な媒体での新着論文の宣伝ならびにタイトルと要旨の日本語訳の掲載に必要な業務量を計算するとともに、アルバイトの雇用などの負担軽減策を検討しています。
- ・これまで鳥学会が行ってきた雑誌の寄贈および交換について、図書管理委員とともに検討中です。
- ・これらの検討事項について11月に開催予定の評議員会で承認を得ることができれば、2024年1月1日をもって英文誌のペーパーレス化を開始したいと考えています。

その他のご案内事項

- ・英文誌のオープンアクセス化については、本検討グループにおける議論の対象外とし、現段階では導入の予定はありません。しかし、鳥学会として積極的に議論していくべき内容であることに同意し、英文誌委員長にはご意見を共有しております。
- ・和文誌のペーパーレス化についても同様に、本検討グループにおける議論の対象外とし、現段階では導入の予定はありません。こちらも和文誌委員長にはご意見を共有しております。

英文誌ペーパーレス化検討グループ

（水田 拓・越智大介・上沖正欣・藤田 剛・嶋田哲郎・松井 晋・片山直樹）

英文誌「Ornithological Science」のペーパーレス化に関する補足資料

ペーパーレス化の背景

生物多様性の保全を含む、環境負荷の低減において「ペーパーレス化」は重要な取組のひとつです。しかしながら、鳥学会においてその取り組みはまだ十分とは言えません。例えば学会誌等の印刷物は、和文誌・英文誌のそれぞれで年間2800部（合計すると5600部）に相当します。1部あたりのページ数を125ページとすると、英文誌だけで年間35万ページ（和文誌と合計すると**70万ページ**）の紙が使用されていることになります。学会誌をペーパーレス化することで、こうした紙資源の印刷製本および郵送に関わる環境負荷の低減が期待できます。

またペーパーレス化は、学会支出の軽減にも貢献します。現在、学会誌の印刷製本・郵送に関する支出額は年間約**430万円**（うち印刷製本が350万円、郵送が80万円）となっています。これは全支出額の1/3を上回る額です。昨今の会員数の推移を踏まえると、今後も大幅な収入増は見込めない一方で、物価増によるさらなる支出増の可能性は極めて高いです。ペーパーレス化によって支出を大きく抑えることで、今後も年会費をできるだけ維持するなど、学会員へのサービス維持・向上に努めることができます。

検討グループおよびこれまでの経緯

そこで鳥学会では英文誌「Ornithological Science」のペーパーレス化検討グループ（以下、検討グループ）を立ち上げました。そのメンバーとこれまでの経緯は以下の通りです。

メンバー：英文誌委員会[水田拓委員長・越智大介副委員長]、和文誌委員会[藤田剛委員長]、
広報委員会[上沖正欣委員長]、事務局[嶋田哲郎・松井晋・片山直樹]（計7名）

- 2022年10月5日 検討グループ立ち上げについて評議員会の承認を得た
- 2023年1月23日 事務局会議において検討グループのメンバー等を決定した
- 2023年3月3日 検討グループウェブ会議を開催した
- 2023年6月27日 アンケート調査について評議員会の承認を得た
- 2023年7月3日 アンケート調査を実施した
- 2023年7月3日 アンケート結果および今後の推進方針について評議員会の承認を得た
- 2023年8月22日 アンケート結果を学会ホームページで公開した
- 2023年8月23日 今後の推進方針を学会ホームページで公開した

Q&A

アンケート調査でいただいたご意見等を元にQ&Aを作成しました。

Q1.なぜ和文誌でもペーパーレス化を目指さないの？

和文誌についても将来的なペーパーレス化の可能性はありますが、和文誌は大会案内等を含めて論文以外の多様な情報を掲載しておりますため、現時点でのペーパーレス化は難しい状況です。冊子の郵送を希望されない方は、個別に春恒社宛にご連絡いただければ郵送を停止することが可能です。学会ホームページの連絡先をご覧ください。

Q2.なぜ英文誌をオープンアクセスにしないの？

現在の学会員の特典として、論文 PDF を J-STAGE 上で出版と同時に閲覧・ダウンロードできることが挙げられます（非会員であっても 1 年後に閲覧・ダウンロード可能になります）。オープンアクセスの議論は重要ですが、こうした会員特典を失うことを意味しますので、今回のペーパーレス化とは別に検討する必要があると考えています。英文誌委員長にはこの意見を共有しています。

Q3. 冊子を継続する場合、団体会員は結局どうなるの？

団体会員は J-STAGE のアクセス権を希望される会員もいたことから、(1)これまで通りの冊子の配布、もしくは(2) J-STAGE のアクセス権の付与、のいずれかを選択していただくことを想定しています。J-STAGE のアクセス権を付与する場合、各団体で代表者一名のみに J-STAGE の ID/パスワードを付与します。ID/パスワードの団体内での共有は禁止いたします。ただしダウンロードや印刷した論文 PDF の共有は可能です。

Q4.冊子を継続する場合は簡易冊子なの？これまで通りの冊子なの？

アンケート調査では簡易冊子の配布を想定しましたが、発注の手間がかかり、印刷部数も少ないことから現在の冊子を継続する見込みです。本資料の見積もりも現在の冊子を想定しています。

Q5.ペーパーレス化によって J-STAGE 上のオンラインファーストは実現できないの？

レタープレス社に見積もりを行った結果、個別の論文のオンラインファーストには 1 論文あたり 12,000 円もの追加費用がかかることが分かり、現時点での導入は見送りたいと考えています。

Q6.ペーパーレス化によって他に気を付けるべきことは何かあるの？

現時点では 50 部の印刷の継続を想定しているので、これらの点に対応する必要はありませんが、仮に完全電子化する（印刷しない）場合には以下の点に注意が必要です。

1. 冊子体で刊行していたものをオンラインジャーナルでの刊行に変更する場合は、タイトルが同じでも別の ISSN になる。オンラインジャーナルの ISSN の取得を希望の場合、別途 ISSN の登録申請を行う (<https://www.ndl.go.jp/jp/help/issn.html>)。
2. 刊行物は国立国会図書館に納本する義務がある (<https://www.ndl.go.jp/jp/help/deposit.html>)。オンライン資料も対象だが、J-STAGE に掲載されている論文など長期利用目的でかつ消去されないものはこの制度の対象外となる。 (<https://www.ndl.go.jp/jp/help/online.html>)。→つまり納本義務の対象外になる。
3. オンラインジャーナルで公表する学名や命名法的行為は、「国際動物命名規約」の規定に従わないと無効になる恐れがあるため、完全に電子化する場合は対策が必要となる。
4. 冊子に載っている論文以外の情報（発行時点での編集委員や評議員のリスト、Editorial Policy、Submission Guidelines など）を別途学会ホームページなどに掲載する必要がある。

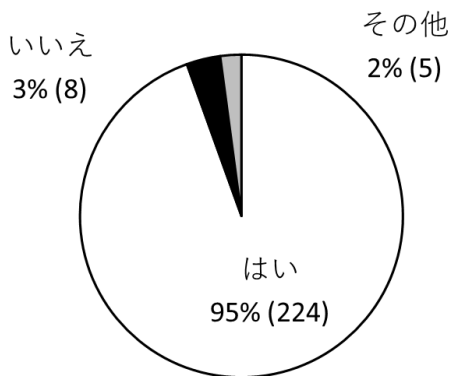
英文誌ペーパーレス化に関するアンケート集計結果

英文誌ペーパーレス化に関するアンケートにご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。以下に集計結果およびいただいたご意見・ご質問への回答をまとめさせていただきます。内容の重複するご質問等につきましては、こちらで要約または省略している場合があります。

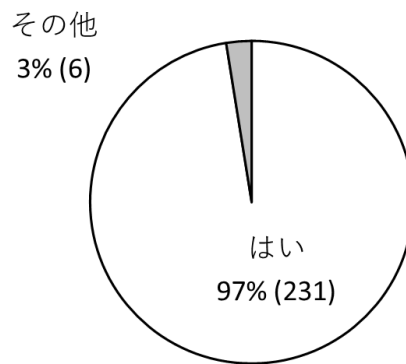
総回答者数：237名（オンライン234名 + FAX1名 + 郵送2名）

アンケート回答結果の要約図：以降に詳しい結果を載せております。

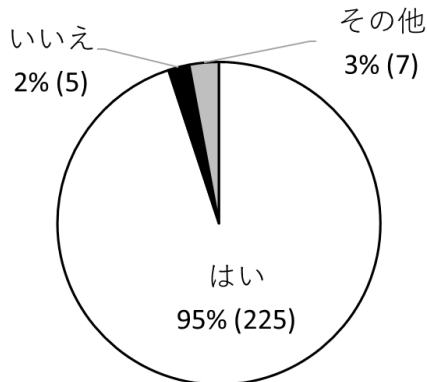
Q1. ペーパーレスへの賛否



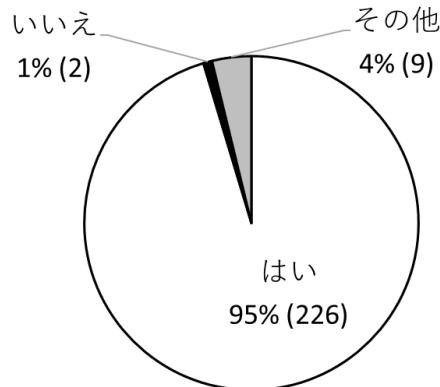
Q2. ID・パスワードの通知



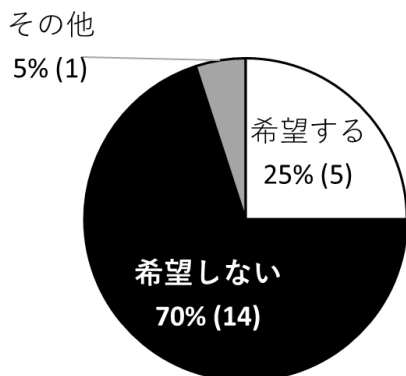
Q3. 別刷り無料配布の廃止



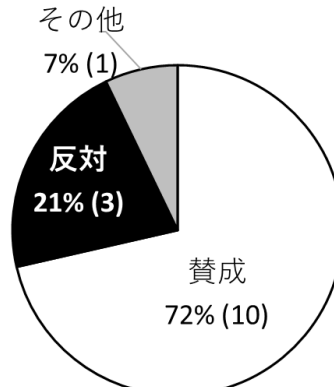
Q4. 新規論文のメール通知



Q5. 簡易冊子の作成・配布



Q6. 団体会員のアクセス権



Q1. 英文誌のペーパーレス化（紙冊子の廃止）の方向性にご賛同いただけますでしょうか。ここでは全体的な方向性への賛否をご回答ください。

「はい」が95% (n = 224)、「いいえ」が3% (8)、「その他」が2% (5)となりました。「その他」の内容とそれに対する回答は以下の通りです。

- ・可能なら Online First もあってよい。(回答) J-STAGE には早期公開の機能がありますが、早期公開のための英文誌委員会の作業負担がさらに増えることになるため慎重に検討中です。
- ・OA 化であるならば賛同。(回答) 現在の学会員の特典として、論文 PDF を J-STAGE 上で出版と同時に閲覧・ダウンロードできることが挙げられます（非会員であっても 1 年後に閲覧・ダウンロード可能になります）。オープンアクセスの議論は重要ですが、こうした会員特典を失うことを意味しますので、今回のペーパーレス化とは別に検討する必要があると考えています。
- ・団体会員や冊子体希望者用には印刷物も残すべき。大学図書館、研究室に冊子体として置かれ、学生の目に触れる機会を増やすことが必要。(回答) ご指摘は理解いたします。一方で印刷物を継続することによる追加コストの増加を考慮しなければならないため、慎重に検討させていただければ幸いです。
- ・和文誌も同様の対応を希望。学会誌の処理に困っている。(回答) 和文誌についても将来的なペーパーレス化の可能性はありますが、和文誌は大会案内等を含めて論文以外の多様な情報を掲載しておりますため、現時点でのペーパーレス化は難しい状況です。冊子の郵送を希望されない方は、個別に春恒社宛にご連絡いただければ郵送を停止することが可能です。学会ホームページの連絡先をご覧ください。

Q2. ペーパーレス化が実現する場合、皆様が英文誌を J-STAGE 上で閲覧しやすいよう、学会員宛の一斉メールを利用して、皆様の ID・パスワードを個別にご連絡したいと思いますがいかがでしょうか。なおメールアドレスを未登録の方は、ID・パスワードを郵送で通知いたします。

「はい」が97% (n = 231)、「いいえ」が0% (0)、「その他」が3% (6)となりました。「その他」の内容とそれに対する回答は以下の通りです。

- ・すでに利用している鳥学会の Jstage アカウントとは別のアカウントを使うということか？(回答) いいえ、これまで通りのアカウントです。ID・パスワードを紛失されている方のために再通知いたします。
- ・有償コンテンツになるのか？パスワード ID 不要で公開でよいのでは。(回答) Q1 でご回答した通り、現在も学会員は論文 PDF を J-STAGE 上で出版と同時に閲覧・ダウンロードできます（非会員であっても 1 年後に閲覧・ダウンロード可能）。その点はペーパーレス化した場合も変更ありません、あくまで冊子がお手元に届かなくなるということです。オープンアクセスの議論は重要ですが、J-STAGE の会員特典を失うことを意味しますので、今回のペーパーレス化とは別に検討する必要があると考えています。
- ・発信力低下を補うため、ペーパーレス化はフリーアクセス化と一体的に行うことが望ましい。ID、パスワードによるアクセス制限には反対。(回答) 上記の回答をご覧ください。
- ・ダウンロードできる PDF 版をお願いしたい。(回答) 現時点で、J-STAGE では PDF がダウンロード可能ですので、ぜひご利用ください。ID・パスワードを紛失された場合は春恒社までご連絡ください。
- ・大学図書館としての契約の為 OA 化もしくは ID/PW の共有が可能ならばよい。(回答) 上記の通り、現段階ではオープンアクセスは予定しておりません。団体会員に対する J-STAGE の ID・パスワード付与につきましては、濫用や漏洩を防ぐために原則として担当者の方 1 名のみとしたいと考えておりますが、希望者への冊子の配布の有無と合わせて、慎重に検討させていただきます。

Q3. ペーパーレス化が実現する場合、これまで行ってきた別刷りの無料配布（最大30部）の継続が困難になります。そこで、有償になりますが、著者らが直接印刷会社（レタープレス）に依頼できるようご案内する形に変更させていただいてもよろしいでしょうか。

「はい」が95% (n=224)、「いいえ」が2% (5)、「その他」が3% (7)となりました。「その他」の内容とそれに対する回答は以下の通りです。

- ・PDFが無償配布されるなら、別刷りの無償配布はなくてもよいと思う。(回答) PDFは無償配布されます。
- ・印刷されたものが必要な方は、個別に自宅ですればよい。知人や関係者に配布する分については、別刷りのPDFファイルをシェアすればよい。この機会に事務局の省力化を最大限進めるのが良い。(回答) 基本的にはその通りだと思います。事務局の負担軽減へのご理解もありがとうございます。
- ・著者にはPDFを配布し、自由に配布できる権利を付与していただきたい。(回答) 現在も学会員は論文PDFをJ-STAGE上で出版と同時に閲覧・ダウンロードできます（非会員であっても1年後に閲覧・ダウンロード可能）。著者個人のホームページ等で不特定多数に対する公開は禁止させていただきますが、少数の知人や関係者にPDFデータを配布することは禁止されておりません。
- ・最大30部の印刷費用の目安は？(回答) ページ数に応じて7,500~12,600円（税別）+送料実費です。

Q4. 英文誌の冊子がお手元に届かなくなることで、新規論文の発信力の低下が懸念されます。その影響を緩和するため、学会員宛の一斉メールを利用して新規論文の出版を皆様に通知し、学会HPにもその旨をお知らせしてよろしいでしょうか。

「はい」が95% (n=226)、「いいえ」が1% (2)、「その他」が4% (9)となりました。「その他」の内容とそれに対する回答は以下の通りです。

- ・アブストラクトの和訳を送ってもらえるとありがたい。(回答) タイトル・要旨の和訳は既に和文誌に掲載されておりますので、ぜひそちらをご覧ください。また今後は一斉メールでの配信時に和訳を載せるなども検討しておりますが、担当者の負担増を考慮して検討を進めたいと思います。
- ・例えば気象学会が気象集誌の発行時に行っているように、論文の題名とリンク先を目次として並べて、メールで知らせて頂けると便利。(回答) メール配信の際に可能かどうか、担当者とは相談の上で検討いたします。
- ・J-stageで日本語訳のタイトルや要約を閲覧できるようにすると良い。和文誌に掲載するだけでなく、Jstageでもすぐにみられると英語の苦手な人への発信力は上がるし、利便性も高くなる。(回答) ご指摘の通りと思います。ただし担当者の負担も大きくなりますので、その点を考慮して検討を進めたいと思います。
- ・海外雑誌のようにツイッター発信をしたり、国内向けには、鳥学通信にリンク付きで紹介してはどうか。Jconet等での告知もあってよい。(回答) これらもその通りと思います。上記の考え方の元で進めさせていただきます。
- ・新規論文はまとめてではなく、受理の都度出していただくとありがたい。(回答) 作業者の負担が大きく増える可能性が高いため、慎重に検討したいと思います。

Q5. [インターネット環境が整っていない会員のみご回答ください。] Q4の方法では、皆様に対して英文誌の情報が届きづらくなります。そこで、もし希望者が多い場合には、従来より簡易な冊子を作成・郵送することも検討中です。有償（1冊1500円・年3000円を想定）となりますが、簡易冊子の作成・配布を希望されますか？

「希望する」が25% (n=5)、「希望しない」が70% (14)、「その他」が5% (1)となりました。「その他」の内容とそれに対する回答は以下の通りです。

- ・インターネット環境が整っていない会員のみ回答の質問を、インターネットが必須の Google フォームで回答せよ、というこの設問は破綻しているのでは。インターネットがなければ、そもそも、この質問サイト (Google フォーム) へアクセス自体ができないはず。(回答) メールアドレス未登録の会員には郵送にてアンケートを通知しており、回答も FAX 等で行えるようにしております。ご理解いただけますと幸いです。

Q6. [団体会員の方のみご回答ください。]団体会員は、現在 J-STAGE のアクセス権を付与されておられません。ペーパーレス化が実現した場合、英文誌を閲覧・ダウンロードできるよう、各団体会員の担当者一名に J-STAGE のアクセス権を付与したいと考えております。この提案にご賛成いただけますでしょうか。もしご反対の場合は、ぜひ理由を教えてください。例えば印刷物の配布を希望される方が多い場合は、従来よりも簡易な冊子を作成・郵送することも検討中です。

「賛成」が72% (n=10)、「反対」が21% (3)、「その他」が7% (1)となりました。「反対」および「その他」の内容とそれに対する回答は以下の通りです。

- ・「反対」冊子の方が読みやすい。絶対冊子が良い。(回答) ご意見ありがとうございます。慎重に検討させていただきます。
- ・「反対」和文誌も同時にオンライン化しない何かしらのネガティブな理由が見えておらず、判断できないため。(回答) 和文誌についても将来的なペーパーレス化の可能性はございますが、和文誌は大会案内等を含めて論文以外の多様な情報を掲載しておりますため、現時点でのペーパーレス化は難しい状況です。
- ・「その他」ID/PW をダウンロードしたものを学内で共有閲覧してもよいのであれば賛成。そうでないなら印刷物の送付を希望。(回答) 団体会員に対する J-STAGE の ID・パスワードは濫用や漏洩を防ぐために原則として担当者の方1名のみとしたいと考えておりますが、ダウンロードした論文自体を学内の関係者のみで共有いただくことは原則として問題ございません。

以上の回答結果を踏まえて、今後は検討グループでさらに検討を進めさせていただきます。引き続きのご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。今回のアンケート結果・回答に対するさらなるご意見等は、以下の連絡先にお問い合わせいたします。

英文誌ペーパーレス検討グループ 片山 直樹

katayama6@affrc.go.jp